



NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 代表理事 高橋 048-462-9912

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

と一緒に自然に親しみ、ボランティア活動をしましょう 随時会員募集中

## 2019年4月、5月の主な予定表 (2019年3月発行)

予定	全体会	新倉ふれあいの森	富澤湧水・大坂ふれあいの森 (地域の会に協力して)
4月	27日(土) 新倉の野草観察とタケノコ掘り 午前の部と午後の部 29日(祝) 白子つつじ祭り	竹林保全 日程は後日連絡します。	12日(金) 富澤保全 17日(水) 大坂ふれあいの森
5月	11日(土) 総会研修会 (白子コミセン・富澤・大坂研修) 26日(日) 緑化祭り	18日(土) 定期保全	15日(水) 大坂ふれあいの森保全 富沢湧水保全

2019年冬から春にかけて、和光の4か所の森で大切な保全活動を行っています。  
(新倉ふれあいの森・富澤湧水・大坂ふれあいの森・樹林公園にて)

1. 新倉ふれあいの森の竹林整備は毎月第3土曜日に行っていて、きれいな竹藪になっています。2年前から移植したカタクリは沢山の葉を伸ばし、花も咲き出しました。



2. 大坂ふれあいの森の落葉置き場の整備では、内田さんが新倉の竹を準備して下さり、皆で手伝い、新しい落ち葉置き場が完成しました。
3. 大坂ふれあいの森では、「白子大坂ふれあいの森の会」が中心で、湧き水の会が協力し貴重種保護などを進めています。この区域の正確な広さを都市整備課と検証しました。今後協働事業へ進めていく方針です。大坂ふれあいの森隣接地では古い家の解体が始まっています。



4. 3月樹林公園のヒロハアマナが春の日差しを受けて、満開になりました。3月末には、一昨年、昨年と2年続けて移植したカタクリたちが花を咲かせてくれることでしょう。楽しみですね。富澤湧水、大坂ふれあいの森、新倉ふれあいの森で野草の保護が行われています。和光の貴重な野草を守り、伝えていきましょう。

5. 3月3日にNPO法人自然観察指導員埼玉の総会が和光市で行われ、午後の研修会は和光の自然と樹林公園についての講演と現地見学を実施、意見交換を行いました。

はじめにスライドを用いて和光市の特徴を解説した。まず開発で都市化が急速に進んだ約30年間の変遷を示した。和光市谷中地区に自生していた絶滅危惧種・ヒロハアマナが開発により消滅することから、市内各所に移植を試みたこと、そして現在は樹林公園で群生している様子を示した。次に、和光市全体の地形地質的特徴を示し、武蔵野台地末端部の湧き水が多い場所であることを解説した。

私たち湧き水の会が市内4か所をフィールドとして、身近な自然を知り、守り、活かす活動を行っていること、特に新倉ふれあいの森の貴重植物の保護、白子地区の湧水周辺の生態系保全、さらに樹林公園での森づくりなどに力を入れていることも紹介した。

その後見学会として、和光樹林公園へ移動した。雨の中14名が参加し樹林公園の現状を観察した。現在の荒れた状態から、いかに樹林を再生するか、どのように再生するかということが話し合われた。

主な意見としては、森の再生の方向として、森をゾーン分けして常緑樹の森や落葉樹の森など様々なタイプの樹林を作るのが良いというものがあった。そうすることで、昆虫や鳥などの生き物も含め、全体として多様な生態系が実現するのではないだろうか。枯れた森の現状を見学した後、県の調査では複合的な原因であるとされていることをあらためて示した。更に詳しい原因調査が必要であるとの意見も出た。湧き水の会が育成した「どんぐりの森」の観察では、周辺の枯れた樹林地とは異なり、落葉の積もったクヌギ、コナラの元気な森となっていることがわかった。そして、今後の里山保全の方法についても論じられた。大変有意義な観察会、意見交換会となりました。



ヒロハアマナは雨のおかげで急に葉が伸び始め、花も見られた

6. 2018年度 埼玉県NPO支援基金の報告会が3月19日 県庁内で行われました。

金紋世界鷹 みどりと川の環境再生保全事業 に採択された事業

共助社会づくり支援事業4団体、NPO活動サポート事業8団体が今年度採択され、それぞれの事業が報告されました。子育て支援、子供の遊び場づくり、居場所づくり、食育応援事業、農業と自然体験事業、天覧山多峯主山の再生活用事業など様々な取り組みが紹介された。

当会の活動については

「都市部の身近な自然の調査、保全、活用から和光の緑と湧き水を次世代に残す事業」

3つの項目を重点に進めた結果、

1. 緑と湧き水を知り、保全するボランティア体験。自然と歴史の理解を深める事業を行い、深い理解が得られた。
2. 緑地保護の制度や基盤を確立するトラスト制度を検討する事業では、小規模でも可能な事。
3. 会の趣旨をビジュアル化し、活動フィールドも紹介するパンフレット作成、活動を広めることに役立つ。

